

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
497	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Fluid intake and incidence of renal cell carcinoma in UK women. 水分摂取と腎臓がん発症についての検討	
<b>執筆者</b>	
Allen NE, Balkwill A, Beral V, Green J, Reeves G; Million Women Study Collaborators.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Br J Cancer. 2011 Apr 26;104(9):1487-92.	
<b>キーワード</b>	
水分摂取、腎臓がん	
<b>要旨</b>	
<b>目的：</b> 飲酒が腎臓がんに予防的な作用を示す理由は水分摂取の増加による発がん物質の希釈効果と考えられている。英国の女性を対象とした大規模コホート研究において摂取する水分の種類と腎臓がんのリスクについて検討した。	
<b>方法：</b> 英国の女性を対象とした大規模研究 the Million Women Study 開始後3年の時点で摂取する水分の種類に関する情報を調査した。コックス比例ハザードモデルを用いて、年齢、地域、社会的地位、喫煙状況、BMI について調整した腎臓がんのリスクを算出した。	
<b>結果：</b> 779369 人の対象者において平均 5.2 年の追跡期間に 588 例の腎臓がん発症を確認した。飲酒量が一日あたり 1 杯未満の者を対照とすると、2 杯以上の者の腎臓がん発症リスクは 0.76(95%信頼区間 0.61-0.96)であり、アルコール飲酒は腎臓がんの発症リスクを軽減していた。その一方で、水分摂取量は、一日あたり 7 杯未満の者を対照とすると、12 杯以上の者の腎臓がん発症リスクは 1.15(95%信頼区間 0.91-1.45)であり、他の水分についても腎臓がん発症リスクと特定の関連は認めなかった。	
<b>結論：</b> 飲酒が腎臓がんに予防的な作用を示す理由は水分摂取の増加によるものではないことが示唆された。	